

クラス	TU304	担当教員	遠藤由美
テーマ	子どもと大人が育つ教育福祉 - 人とつながる -		
著書・論文	研究課題：教育福祉問題研究		
研究課題等	著書論文等：「戦後日本の養護施設の系譜-合宿教育所の成立と転換-」『児童福祉法研究』10 「教育と福祉の権利の展開」『子どもの権利研究』第7号 「児童養護施設における養護・養育と保育」『季刊 保育問題研究』第250号 『児童養護と青年期の自立支援』『子どもの社会的養護内容』『子どもと教育法』に論文掲載		
ゼミナール概要			
キーワード：教育福祉，教育と福祉の権利の統一的保障，学びあいと育ちあい，つながる，貧困，養護問題			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>私は、学生時代、児童養護施設の子どもたちが高校進学して学びたくても、経済的な理由や施設の条件などから学べない実態に出会いました。中卒で就職せざるを得なかった人の中には、転職を繰り返し、施設からは連絡をとれなくなってしまった人がいました。学びたい子どもたちが学べる条件づくり。それが求められていると思い、児童養護施設の保育士さんや児童指導員さんたちと研究会活動をするようになって、30年以上たちました。</p> <p>研究運動の取組みのなかで、子どもたちの条件が前進した面もありますが、未だに安定した暮らしのできない人たちもたくさんいます。家族の貧困、子どもの貧困、実践の貧困、制度の貧困が問題です。私にとっては、養護問題を抱える人たちが学びを深め、生活を切り拓いていけるような条件を考え作っていくことが、ライフワークになりました。</p> <p>今、これまでの経験をふまえ、子どもとおとなが共にそだちあう存在だととらえ、子どもが育つためにおとなができること、おとな同士の関係形成、子どもとの関わりをとおしておとなが学ぶことに注目しています。これまでのゼミでは、大きく3つの課題を取り上げてきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 児童養護施設、児童自立支援施設の子どもたちの学習権保障（学校との連携・関係、施設生活における教育的役割） ② 保育士・児童指導員の役割（共同学習） ③ 親・家族との共育て <p>来年度は、広い意味での学習権保障のために、子どもや親の気持ち（表現）を受けとめる実践やしぐみについて検討を深めていきたいと考えています。養護実践記録や施設実習記録を分析・検討するとともに、保育所（名古屋市）、乳児院・児童養護施設（県内外）に出かけ、保育実践や養護実践の現状を学び、子どもの育ちを追跡します。また、児童相談所のエントランスを飾る作品制作や里親制度普及の企画のお手伝い、ことば遊びするミュージシャンの施設訪問手伝いなど、現場から声のかかる協力要請に積極的に応えて活動する中で、「人とつながる」経験を重ね、その大切や喜びを分かちあいたいと思います。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミでは、自前のことばで考え、表現すること、ゼミメンバーと協力して課題に取り組むこと、現実から学ぶことを大切にします。さまざまな人たちの意見は大切に、学んだり参考にしたりすることはおいにやってほしいことですが、そのまま「うのみにする」ことは避けたいものです。自分なりに他の意見や説をどうとらえていくのか、自分はどう感じるのか、考えるのかを大切に、表現してください。</p> <p>せっかく福祉大の子ども発達学部にやってきて、遠藤ゼミを選択するのならば、それをいかして、教育福祉を学んでください。講義「教育福祉論」を履修することはもちろん望みますが、そこでお話すること以上の内容について、考えあうことを楽しみにしています。</p> <p>3年次の終わりから卒業研究の準備をはじめ、4年次には卒業論文を書きます。合宿や研究会参加もしますので、お金もかかります。準備をしておいてください。少なくとも、2016年7月初めに予定されている全国児童養護問題研究会全国大会（大阪）への参加を求めます（施設実習と重ならない限り参加）。</p> <p>エントリーにあたっては、ゼミオリ時の上級生説明の他に、必ず面談にきてください。問題関心をきいたうえで、受け入れを検討します。</p>			